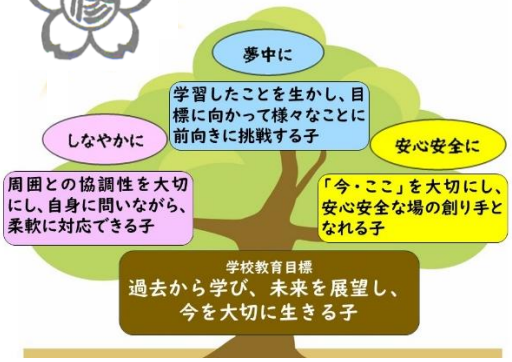
たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校



令和8年　2月24日
京都市立修学院小学校
校長　鎌田　賢二

校長室だより「こころ」NO.44

「～ちゃんと同じクラスにしてください」～小さな手紙がくれた「問い」～

立春を過ぎ、暦の上では春が始まりました。梅の花が咲いたり、チューリップの芽がでてきたり、視覚的にも春が感じられるようになってきました。今回は新入生の保護者の方々への話になりますがお付き合いください。

先日は「半日入学」へのご来校、ありがとうございました。ピカピカに瞳を輝かせた新一年生の皆さんに会い、学校中がパッと明るいエネルギーに包まれたような気がします。そんな半日入学の終了後、私のもとに学校に通う兄や姉を通して小さなお手紙が届きました。一生懸命に書いてくれたその紙には、こう記されていました。

「～ちゃんとおなじクラスにしてください」

その真っ直ぐな言葉に、「なんだこれは！」と面白いなぁと思うと共に胸が熱くなりました。以前、このお便りで「答えを探すのではなく、問いを探す」というお話をしました。このお手紙も、私にとっては大切にしたい「問い」を投げかけてくれたように感じます。

私たちはつい、「どうすれば同じクラスになれるか」あるいは「なれなかった時にどう説明するか」という、目先の「答え」を急いで探してしまいがちです。しかし、この子の純粋な願いの根っこにあるのは、「お友達が大好き」という温かな気持ちと、新しい世界への少しの不安、そして「この先生なら言っても大丈夫」という学校への小さな信頼だと受け取りました。私はかつて、高校生の娘との会話で、自分の考えを押し付けてしまい、大切な対話ができなくなった経験があります。その時学んだのは、相手の主張を「どうせ無理」と突っぱねるのではなく、まずはその心を「傾聴」し、折り合いをつけていくことの大切さでした。

今回のお手紙も同じです。「クラスを同じにする・しない」という結果（答え）以上に、その子の「～ちゃんと一緒にいたい」という優しい願いを、まずはまるごと受け止めたいと思います。学校は、今ある大切な絆を基盤にしながら、新しい出会いを通じて世界を広げていく場所です。クラス発表の日は、新入生の保護者の方もドキドキするものです。もし願いが叶えば、それは大きな喜びになるでしょう。もし違うクラスになったとしても、そこにはまた別の「素敵な出会い」が待っています。私たちは、子どもたちがどのクラスになっても「しなやかに」新しい環境に馴染み、自分らしく「夢中」になれるよう、そして何より「安心・安全」に過ごせる居場所になることを目指して取り組みます。これについてはどの学年であろうと変わることはありません。

「よりよい問いを探す」ことで行動が変わるとすれば、このお手紙に対する私の問いは、「どうすれば、この子がどのクラスになっても『笑顔』『ありがとう』の毎日にできるか」です 。四月、桜の下で皆さんの笑顔に再会できるのを、教職員一同、心待ちにしています。

新しい環境に踏み出すとき、あなたにとっての「勇気の源」は何ですか？